日本犯罪心理学会

Japanese Association of Criminal Psychology

第６３回大会プログラム

２０２５年8月３０日（土）・３１日（日）

文教大学　越谷キャンパス

北大路書房

〒603-8303　京都市北区紫野十二坊町12-8
☎075-431-0361 FAX 075-431-9393
https://www.kitaohji.com（価格税込）

犯罪行動の心理学［原著第6版］

J．ボンタ，D．A．アンドリュース著　原田隆之訳
A5上製・544頁・定価7150円　膨大なデータに基づいた犯罪リスク要因を示し，科学的知識をもとにしたアセスメントや治療サービスという実践に導く。人間の個別性や多様性への畏敬の念と心理学の実践を結びつけ，その重要性を示す。世界中の犯罪・司法臨床現場に影響を与えた原著第6版。

テキスト 司法・犯罪心理学

越智啓太，桐生正幸編著　A5上製・632頁・定価6380円　本物の犯罪心理学を学ぶための骨太な教科書。「犯罪行動」「捜査・防犯・矯正」の2部で構成。プロファイリング，ポリグラフ検査，目撃証言，取調べなど，行動科学的な犯罪心理学を中心に，実証的知見を数多く取り入れて編集。日本における真の犯罪心理学者の姿が浮かぶ仕掛け。

ドムヤンの学習と行動の原理［原著第7版］

M．ドムヤン著　漆原宏次，坂野雄二監訳　B5上製・424頁・定価7920円　学習心理学の泰斗・ドムヤンによる米国で評判のテキスト，待望の邦訳。行動の誘発，強化，制御，消去，変容に関わる学習の原理，およびその広範な活用について，神経科学の裏づけを加えつつ新たな研究知見を紹介。

感情制御ハンドブック

―基礎から応用そして実践へ―　有光興記監修　飯田沙依亜，榊原良太，手塚洋介編著　A5上製・432頁・定価6160円　本邦で展開されてきた多彩な感情制御研究を一望できる書。基礎理論に始まり，社会・人格・認知・発達・臨床・教育，さらには経済・司法・労働までの各分野における最新知見を8部31章21トピックスで紹介。

代替行動の臨床実践ガイド

―「ついやってしまう」「やめられない」の〈やり方〉を変えるカウンセリング―　横光健吾，入江智也，田中恒彦編　A5・272頁・定価3080円　夜更かし，ギャンブル，飲酒，風俗通い，リストカット，家族間のコミュニケーション不全……。問題行動を減らし「望ましい行動」を増やすためのノウハウを紹介。

不安とうつへのポジティブ感情トリートメント［セラピストガイド］

M．G．クラスク，H．J．ドゥール，M．トレナー，A．E．ミューレ著　鈴木伸一，伊藤正哉監訳　A5・240頁・定価4400円　ポジティブ感情トリートメントは不安やうつを抱える人が物事に取り組む意欲を回復して人生の楽しさや喜びを見出せるようになるアプローチ。基本原則，行動科学・神経科学の基礎理論，実践の要点などをセラピスト向けに手引き。

心理学・教育学研究のための効果量入門

―Rを用いた実践的理解―　中村大輝著　A5・232頁・定価3520円　ジャーナルでの研究報告に求められる効果量とその信頼区間について，理論から実践まで体系的に学べるテキスト。効果量の定義，計算方法，解釈や統合の方法，効果量に基づくサンプルサイズ設計の方法を，Rコードと論文での実際の記載例を交えて紹介。

深掘り！ 関係行政論 司法・犯罪分野

―公認心理師必携―　高坂康雅編著　A5・256頁・定価3190円　働いてからも使える心理職の「下地」をつくる法制度入門書。少年鑑別所・少年院，刑事施設や家庭裁判所，警察等の司法・犯罪分野で求められる法律やガイドラインを，少年非行の処遇，精神障害者の犯罪と処遇，犯罪被害者の支援，配偶者暴力防止，離婚と面会交流などのテーマ別に解説する。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事［全20巻］完結！

シリーズ監修　太田信夫
●A5判・148～232頁・定価2200～2530円

1 感覚・知覚心理学	2 神経・生理心理学	3 認知心理学	4 学習心理学	5 発達心理学
6 高齢者心理学	7 教育・学校心理学	8 臨床心理学	9 知能・性格心理学	10 社会心理学
11 産業・組織心理学	12 健康心理学	13 スポーツ心理学	14 福祉心理学	15 障害者心理学
16 司法・犯罪心理学	17 環境心理学	18 交通心理学	19 音響・音楽心理学	20 ICT・情報行動心理学

FOR SPECIALIST

私たちは
心理テストの「総合代理店」
お電話一本、メール一本で
国内・国外の専門団体に
著名な心理テストを
瀬戸内海から
360日稼働で、お届けしています。

(見積り～予算組みも迅速対応。益々、ベルをご利用下さい。)

全省庁統一資格 ：0000121354

●代表的 心理検査ツール
WISC・WAIS・TEG・POMS・CAARS・SDS・PF・MMPI・YG・KABC・SLTA・BADS・BIT・箱庭用具 ～（正規代理店）

●代表的 ご利用ユーザー
公認心理師・精神科医師・臨床心理士・言語聴覚士・人事担当者・養護教諭・スクールカウンセラー ～

●代表的 ご利用団体
クリニック・医療団体～大学・特別支援団体・教育センター・教育委員会・矯正施設・自治体・自衛隊・海外日本人学校・国内外企業 ～

●代表的 心理検査専門出版社
㈱日本文化科学社・㈱三京房・㈱新興医学出版社・㈱金子書房・㈳ 雇用問題研究会・㈱クリエーションアカデミー ～ 多数の専門出版社

SACCESS・BELL
サクセス・ベル株式会社
www.saccess55.co.jp
Mail■jp-bell@saccess55.co.jp
TEL■0823-45-5555
FAX■0823-45-3535
〒737-2302
広島県江田島市能美町鹿川3642-1

開催にあたって

皆様、ようこそ「日本犯罪心理学会第６３回大会（於：文教大学越谷キャンパス）にお越しくださいました。今大会は、コロナ禍を経た対面形式として、久しぶりの首都圏での開催となります。大会全体シンポジウム、４本の大会企画ミニ・シンポジウム及び１０本の公募ミニ・シンポジウムの開催をはじめ、多くの口頭発表、ポスター発表の応募がありました。有益な話題提供と活発な議論が期待されます。参加者の皆様にとって、実りある２日間となることを祈念しております。

日本犯罪心理学会第６３回大会準備委員会

委員長　須藤　明

大会スケジュール

8月30日（土）

9:00 受付: 12号館１階ホール

10:00

公募ミニ・シンポ1	公募ミニ・シンポ2	口頭発表（一般）1	口頭発表（一般）2	口頭発表（一般）3	口頭発表（一般）4	ポスター発表1
臨床犯罪心理学における感情労働 Ⅳ －専門家が育つこと、育ってからのこと－	犯罪者が人生を物語ること－臨床と研究から立ち直りのヒントは見つかるか－	処遇	非行・犯罪観／防犯・被害・地域	各種犯罪・犯罪者・捜査	事例	
13号館2階 １３２０１	13号館2階 １３２０２	12号館1階 １２１０１	12号館1階 １２１０２	12号館1階 １２１０３	12号館1階 １２１０４	12号館1階 ホール

13:00 総会: 13号館１階 大講義室（１３１０１）

14:00 全体シンポジウム

罪を犯した若年者・少年の処遇と支援
－現状と将来展望－

13号館１階 大講義室（１３１０１）

17:00

18:00 懇親会： 食堂

8月31日（日）

9:00 受付： 12号館１階ホール

10:00

大会企画 ミニ・シンポ1	大会企画 ミニ・シンポ2	大会企画 ミニ・シンポ3	公募ミニ・シンポ3	公募ミニ・シンポ4	口頭発表（一般）5	ポスター発表2
薬物依存を抱える人に対する息の長い回復支援	ヤングケアラーの観点を持って非行少年を理解・支援すること	裁判における心理鑑定―専門家証人としての心理学者のあり方	多様な性犯罪の現状と対策: 加害者臨床と被害者臨床の最前線	犯罪心理学の研究を本格的に始める人のために	事例／査定・評価	
13号館2階 １３２０１	13号館2階 １３２０２	12号館1階 １２１０１	12号館1階 １２１０４	13号館1階 大講義室 １３１０１	12号館1階 １２１０２	12号館1階 ホール

13:00

大会企画 ミニ・シンポ4	公募ミニ・シンポ5	公募ミニ・シンポ6	公募ミニ・シンポ7	公募ミニ・シンポ8	公募ミニ・シンポ9	公募ミニ・シンポ10
裁判・審判の過程におけるアセスメントを中心とした心理と福祉の連携、協働、課題を考える	矯正施設における再犯防止指導に力動的集団精神療法を活用することの効果とそれを実践できる職員の育成を考える	犯罪心理学研究における data visualization 2	非行・犯罪におけるいじめ被害者・加害者への支援	刑事施設における投影法の活用状況と今後の発展について	社会内で再犯防止支援を有効に実践するには―円滑な多職種協働を基盤とした加害者臨床―	民間施設における性犯罪再犯防止に向けた認知行動療法の活用
12号館1階 １２１０２	12号館1階 １２１０１	12号館1階 １２１０３	12号館1階 １２１０４	13号館2階 １３２０１	13号館2階 １３２０２	13号館1階 大講義室 １３１０１

15:00

8/30・31

・展示・販売　１３号館１階　ホール

・休憩室　１２号館２階１２２０３、食堂

・１２号館２階

- ・クローク　12214
- ・大会本部　12210・12211
- ・保育室　12213
- ・学会各委員会 12212
- ・学会理事会 12203

会場へのアクセス

会場:文教大学越谷キャンパス　埼玉県越谷市南荻島 3337

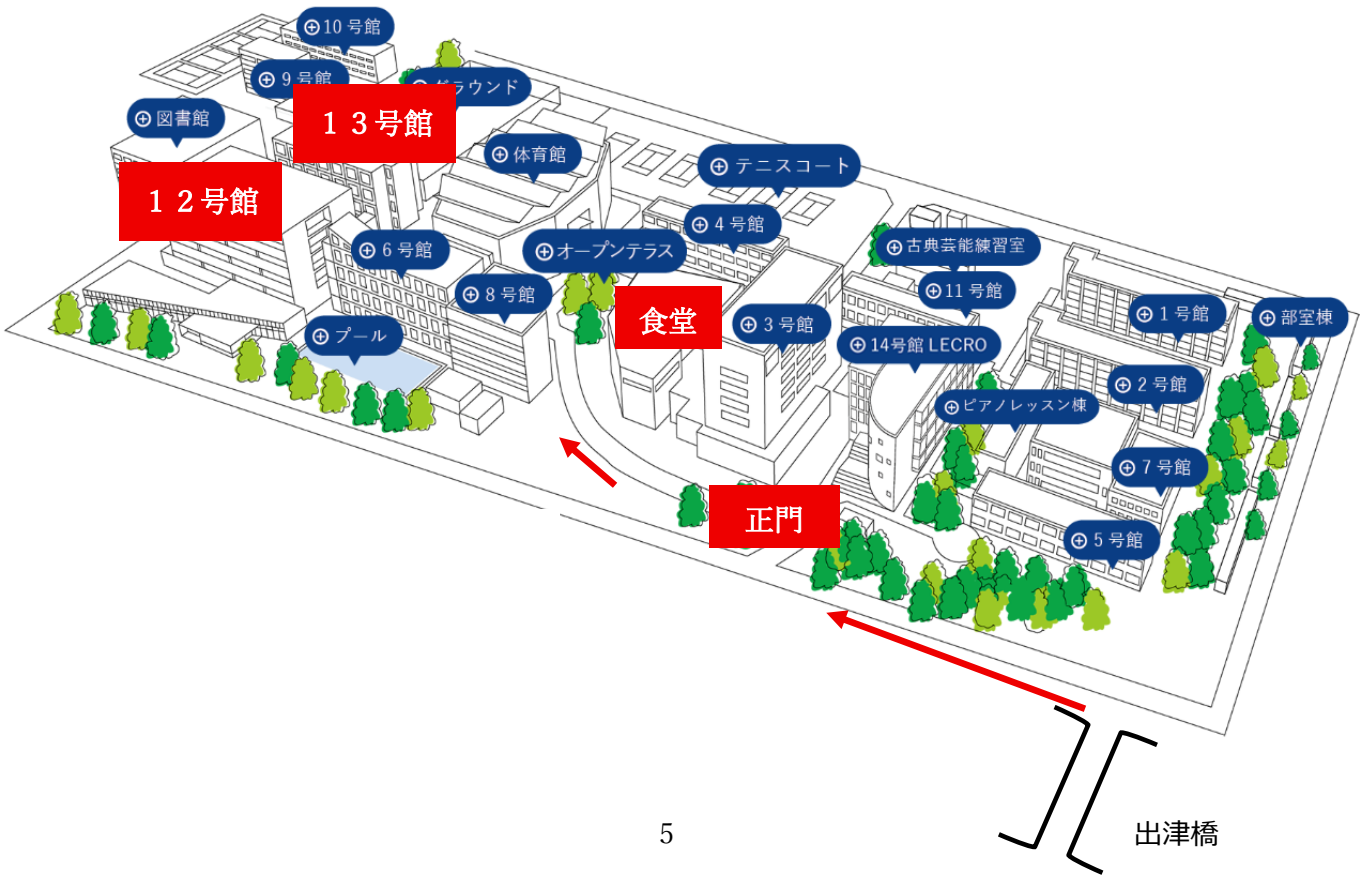
○最寄り駅：東武スカイツリーライン　「北越谷駅」

※当日は、酷暑が予想されるため、最寄り駅や大学構内等に案内係スタッフを配置しません。
※会場には駐車場がありません。公共交通機関をご利用ください。

①改札口を出て、左に進む。
（「西口」のロータリーに出ます。）
ロータリーの右側の道路を直進
②信号機のない交差点（十字路）を直進
③右手にコンビニ（セブンイレブン）が見える交差点を右折
④出津橋を渡ると、大学が見えます。
⑤「正門」からお入りください。

○受付は１２号館です。

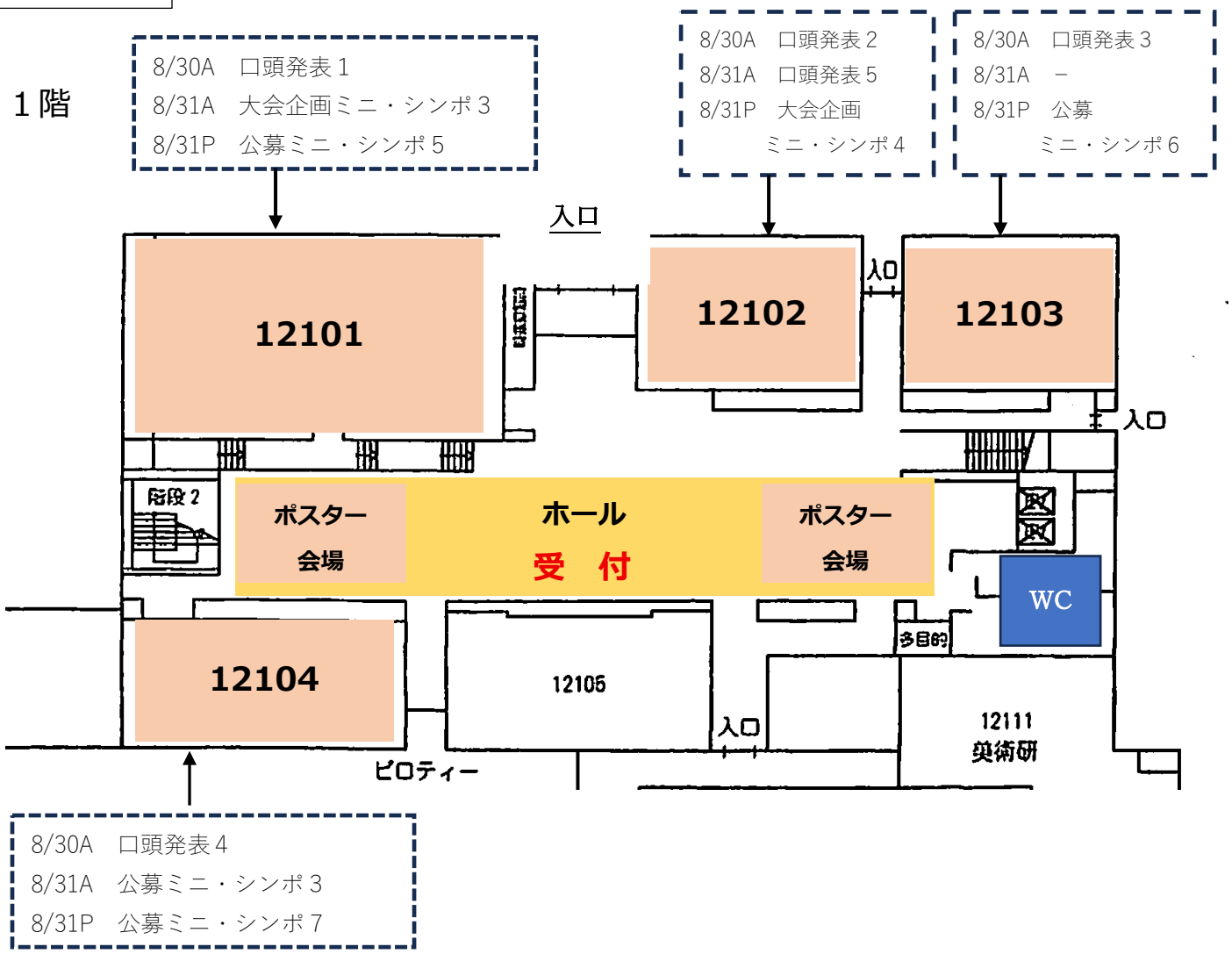
会場は、１２号館、１３号館を使用します。



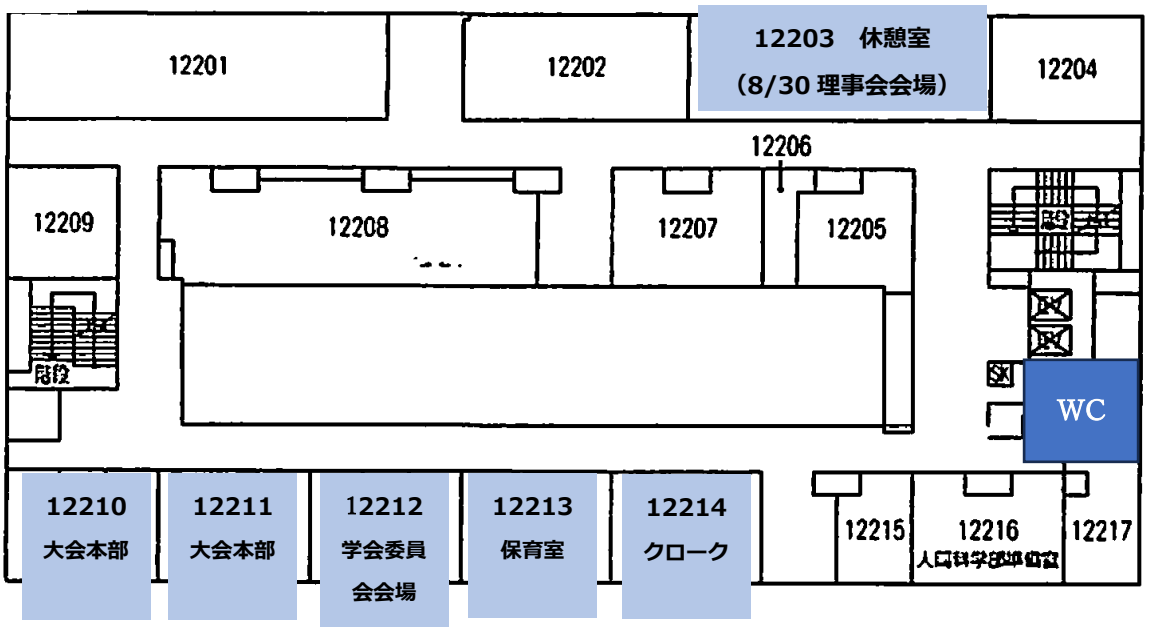
会場のご案内

１２号館

１階



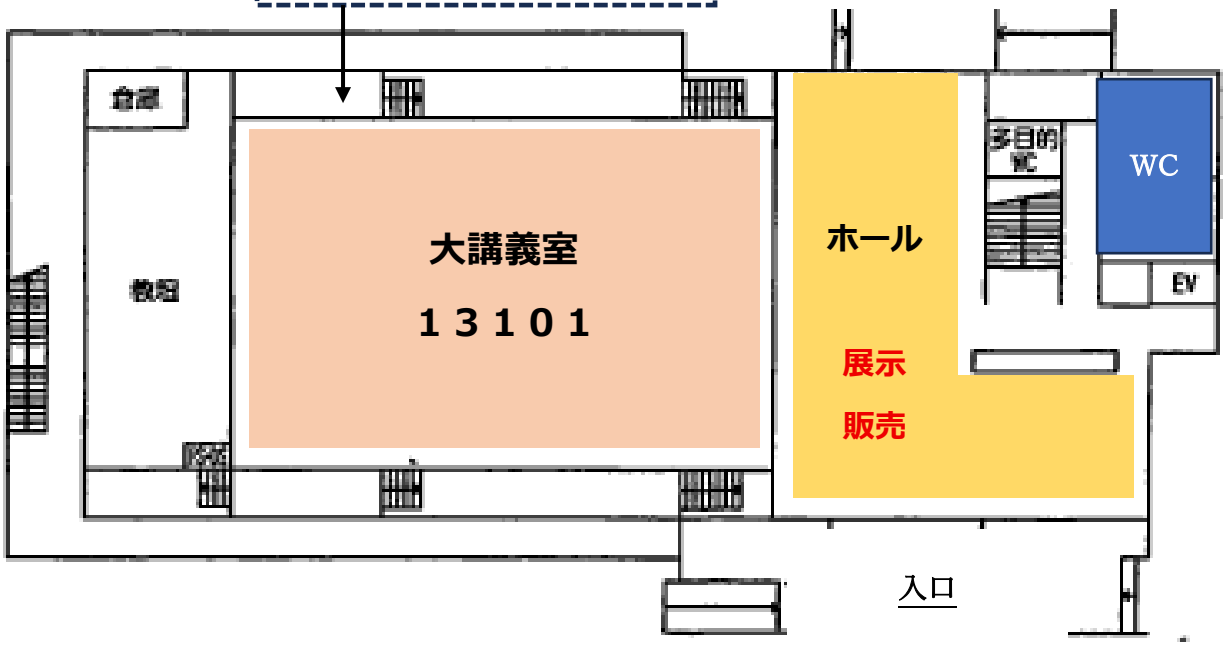
２階



１３号館

１階

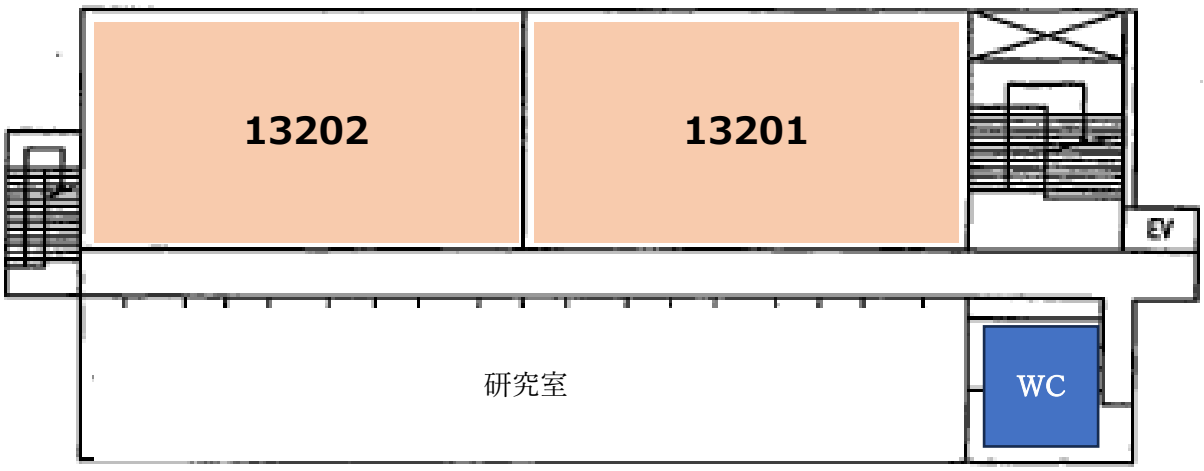
8/30 昼　学会総会
8/30 P　全体シンポジウム
8/31 A　公募ミニ・シンポ４
8/31 P　公募ミニ・シンポ１０



２階

8/30 A　公募ミニ・シンポ２
8/31 A　大会企画ミニ・シンポ２
8/31 P　公募ミニ・シンポ９

8/30 A　公募ミニ・シンポ１
8/31 A　大会企画ミニ・シンポ１
8/31 P　公募ミニ・シンポ８



食　堂

懇親会の会場です。また、２日間、休憩所として利用できます。（食事の提供はありません。）

大会参加者へのご案内

1. 大会受付

受付は、１２号館１階ホールにて、両日、９時００分より開始します。初めて会場に来場された際に、受付を行ってください。

2. 大会諸費用

大会参加費　正会員（一般）・臨時会員（一般）　　7、000 円

正会員（学生）・臨時会員（学生）　　3、000 円　※受付に学生証提示のこと

※参加証は、会員区分にかかわらず、大会当日に受付にてお渡しします。

※名誉会員の大会参加費は、無料です。

※臨時会員の方は、口頭発表（事例）に参加できません。

3. クローク

１２号館２階の 12214 室にて、お荷物をお預かりいたします。お預かり時間は、第１日目は９時 00 分～17 時 30 分まで、第２日目は９時 00 分～15 時 30 分までです。クロークは施錠ができないため、貴重品は必ずご自身でお持ちください。

4. 参加証

受付にて、参加証（ネームプレート）をお渡します。会場内では、必ず、参加証（ネームプレート）をお付けください。参加証（ネームプレート）は、大会両日を通じて使用します。

5. 発表会場など

ポスター発表の会場は、１２号館１階のホールです。口頭発表と各シンポジウムの会場は、大会スケジュール等をご参照ください。

6. 打合せ、休憩、展示・販売コーナーなど

シンポジウムや一般発表の打合せ、ご休憩には、１２号館２階の 12203 室をご利用ください（両日とも９時 00 分から利用可能です）。また、食堂も休憩等に利用できます（飲食の提供はありません。）。

展示・販売コーナーは、１３号館１階のホールです。

7. 昼食、喫煙所

昼食は、駅近隣の飲食店やコンビニエンスストア等をご利用ください。お弁当などご持参の方は、休憩室（１２号館２階の 12203 室、食堂）をご利用ください。ゴミは、各自でお持ち帰りください。

また、大学構内は、禁煙です。

8. 総会

第１日目の 13 時 00 分から、１３号館１階の大講義室（13101 室）にて開催する予定です。

9. 懇親会

懇親会は、食堂で行います。懇親会は事前申込制です。

10. 大会本部

大会本部は１２号館２階の 12211 室です。緊急のご連絡の際には、本部にお越しいただくか、お近く

のスタッフにお声掛けください。

大会本部では資料の印刷・複写などは受け付けておりません。必要な方はあらかじめご用意ください。

11. 託児室

大会期間中、１２号館２階の 12213 室に保育室（託児室）を開設します。事前申込み制で、お預かりできるお子様の年齢、人数に制限があります。別途、メール等でアナウンスするご案内を確認してください。

12. 発表原稿（大会抄録原稿）の提出方法

Web での提出となります。2025 年 8 月 1 日（金）までに、発表申込みと同じ申込みシステムから、PDF ファイルにてご投稿ください。

※大会会場での提出は受け付けませんのでご了承ください。

※期限までに抄録原稿の提出がない場合は、正式な学会発表とは認められません。

※抄録原稿作成要領に従って原稿を作成してください。作成要領は、学会ホームページ上に掲載しております。

抄録原稿に関する問い合わせ先

日本犯罪心理学会第 63 回大会抄録原稿　問い合わせ受付係

〒162-0801　東京都新宿区山吹町 358-5

（株）国際文献社内　日本犯罪心理学会第 63 回大会ヘルプデスク

E-mail：jacp63@je.bunken.co.jp

Fax: 03-5227-8632

※連絡はできるだけ E-mail にてお願いします。

口頭発表のご案内

1. 口頭発表（一般）

座長 2 名が司会進行を行います。1 件あたり 15 分を割り当て、発表を 12 分、質疑応答を 3 分とします。時間をお守りいただき、座長の指示にしたがって発表を進行させてください。会場スタッフによる合図は以下の通りです。

1 鈴　発表終了 2 分前（10 分経過）

2 鈴　発表終了（12 分経過）

3 鈴　質疑応答終了（15 分経過）

2. 口頭発表（事例）

口頭発表（事例）は正会員のみ参加の会場となりますので、ご注意ください。座長 1 名が司会進行を行います。1 件あたり 30 分を割り当て、発表を 20 分、質疑応答を 10 分とします。時間をお守りいただき、座長の指示にしたがって発表を進行させてください。会場スタッフによる合図は以下の通りです。

1 鈴　発表終了 2 分前（18 分経過）

2 鈴　発表終了（20 分経過）

3 鈴　質疑応答終了（30 分経過）

3. 機材

口頭発表（一般・事例）に用意されている機材は、パソコン、液晶プロジェクターです。原則、会場に備え付けのパソコンを使用してください。各自、USB 等に格納した発表用データをご持参の上、備え付けパソコンのデスクトップ上にデータ移行してください。データ移行は、９時１５分以降、各会場で行えるようにします。

なお、自前のパソコンや iPad をご使用される場合は、接続アダプタ（HDMI や D-Sub）をご持参し、各自で、各セッションの発表開始時間前に動作確認を行うようにしてください。

4. 配布資料

配布資料は各自でご用意ください。大会本部では配布資料の印刷は行いません。

5. 発表成立の要件

セッション全体に参加し、口頭発表を行い、討議に参加することと、期限までに発表原稿抄録を提出することにより、発表が成立したと認められます。

6. 責任発表者、連名発表者、発表の取り消し

プログラムで「○」印が付いている方が責任発表者です。責任発表者が欠席した場合は発表取り消しとみなします。ただし、大会本部の了承を得て、連名発表者が発表を代行することができます。責任発表者の欠席や連名発表者による発表代行がある場合、大会前は大会ヘルプデスクへ、大会期間中は大会本部へ連絡してください。

口頭発表において発表の取り消しがあった場合、その後の発表スケジュールの繰り上げは行いません。座長の指示にしたがって、討論や休憩等の時間にあててください。

ポスター発表のご案内

1. 掲示

ポスター発表の会場は、１２号館１階のホールです。演題番号をご確認いただき、所定のパネルにポスターを掲示してください（連続する奇数及び偶数の演題番号の発表者２名で、１枚のパネルの表裏を使用します。例：番号１番の発表者－番号２番の発表者、番号９番の発表者－番号１０番の発表者）。

掲示時間は第 1 日目、第 2 日目とも 10 時 00 分～12 時 00 分です。ポスターの掲示は両日とも 9 時 00 分から可能ですので、発表開始前に作業を行ってください。画鋲等の貼付用具は会場に用意します。発表終了後は、迅速に撤去していただくよう、ご協力をお願いします。終了時刻後も撤去されていないポスターは大会本部で撤去・廃棄することがあります。

2. ポスター形式

発表用ポスターは「縦 165cm × 横 110cm」に収まるように作成してください。最上段に、題目・氏名・所属を明記してください。

3. 発表資料

配布資料は各自でご用意ください。大会本部では配布資料の印刷は行いません。

4. 発表成立の要件

ポスター発表では、ポスターを掲示し、これをもとに個別に討議を行っていただきます。掲示時間は 2 時間で、責任在席時間は 1 時間です。下記の時間に、ご自身のポスターの前に在席し、質疑応答を行うことと、発表抄録を提出することにより、発表成立が認められます。

	第 1 日目（ポスター発表 1）	第 2 日目（ポスター発表 2）
演題番号が奇数の場合	10 時 00 分～11 時 00 分	10 時 00 分～11 時 00 分
演題番号が偶数の場合	11 時 00 分～12 時 00 分	11 時 00 分～12 時 00 分

5. 責任発表者、連名発表者、発表の取り消し

プログラムで「○」印が付いている方が責任発表者です。責任発表者が欠席した場合は発表取り消しとみなします。ただし、大会本部の了承を得て、連名発表者が発表を代行することができます。責任発表者の欠席や連名発表者による発表代行がある場合、大会前は大会ヘルプデスクへ、大会期間中は大会本部へ連絡してください。

シンポジウムのご案内

全体シンポジウム

8月３０日（土）14：00～17：00　**１３号館１階　大講義室（13101）**

罪を犯した若年者・少年の処遇と支援

―現状と将来展望―

司会・進行	須藤　明	（文教大学）
話題提供者	西田　篤史	（川越少年刑務所）
	勝田　聡	（法務省保護局）
	井村　良英	（認定特定非営利活動法人　育て上げネット）
	古橋　拓也	（ハワイ大学）
指定討論者	本庄　武	（一橋大学）

本シンポジウムでは、罪を犯した若年者・少年の更生・支援について、心理学の知見を活かしつつ、民間団体も含めた多様な協働と連携をどのように構築していくかといった視点で、現状の取組と課題を明らかにするとともに、将来展望につながる討論を行う。

大会企画ミニ・シンポジウム

大会企画ミニ・シンポジウム１

8月３１日（日）10：00～12：00　**１３号館２階　１３２０１**

薬物依存を抱える人に対する息の長い回復支援

企画・司会	吉村　雅世	（公益財団法人　矯正協会）
話題提供者	鈴木　理絵	（北海道矯正管区）
	池野　里奈	（千葉保護観察所）
	森田　邦雅	（特定非営利活動法人　東京ダルク）
指定討論者	森田　展彰	（筑波大学）

「薬物依存は慢性の病気です」というのが、保護観察官として薬物再乱用防止プログラムを担当することになって最初に出会った言葉です。この言葉が意味するのは、薬物依存を抱える人は、薬物を使わない生活を一日一日積み重ねる努力を、人生を通じて続けていかなければならないということです。長い人生を考えれば、矯正施設や保護観察所で薬物プログラムを受ける期間は限られています。この期間のプログラムをいかに心に刻み、薬物依存との付き合い方を身体に沁み込ませてもらうのか、これらのプログラムを終えて地域社会で生活する中で、薬物依存を抱える人が孤独に陥らず、周囲のサポートを得ながら暮らしていくには、どういうところとつながれば良いのか、そのような思いから、このミニ・シンポジウムを企画しました。

本年６月の拘禁刑の創設により、刑事施設では依存症回復処遇課程が設けられました。こうした薬物依存をめぐる最新事情についての話題提供を受けて、薬物依存を抱える人への息の長い回復支援について、地域の様々な機関や自助グループとの連携の在り方も含めて、意見を交わし、考える機会にしたいと思います。薬物依存に関心をお持ちの皆様、ぜひお集まりください。

大会企画ミニ・シンポジウム２

8月３１日（日）　10：00～12：00　**１３号館２階　１３２０２**

ヤングケアラーの観点を持って非行少年を理解・支援すること

企画・司会　　東山　哲也　（関東矯正管区）
話題提供者　　今村　悟也　（和歌山少年鑑別所）
　　小嶋　瑠莉　（愛光女子学園）
　　高垣内　文也（一般社団法人　ヤングケアラー協会）
指定討論者　　斎藤　真緒　（立命館大学）

ヤングケアラーについては、近年社会課題として取り上げられる機会が増えているところ、改正子ども・若者育成支援推進法において、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」として、国・地方公共団体等が各種支援に努めるべき対象として明記された。他方、少年司法領域においては、まだ十分に知られていないものの、ヤングケアラーに類した生い立ちの少年が少なからず存在し、その観点を持って対象者を理解・支援することは、立ち直り支援において有効と考えられる。

本企画では、少年鑑別所の心理職から、在所者に対する実態調査の結果を踏まえ、ヤングケアラーに類した生い立ちの非行少年の特徴や、その観点を生かした対象者理解等について、少年院の心理職から、ヤングケアラーに類した生い立ちの在院者や彼らへの指導・支援の実情について、当事者・支援者からヤングケアラーの抱える思いや必要な支援について話題提供いただいた上で、ヤングケアラーの研究・支援に精力的に取り組んでいる指定討論者からのコメントを踏まえて、ヤングケアラーに類した生い立ちの非行少年の支援に少年司法の心理職がどのように関わることができるか等について、関係機関との連携の在り方も含めて議論したい。

大会企画ミニ・シンポジウム３

8月３１日（日）　10：00～12：00　**１２号館１階　１２１０１**

裁判における心理鑑定

―専門家証人としての心理学者のあり方―

企画・司会　　和智　妙子　（駿河台大学）
話題提供者　　橋本　和明　（国際医療福祉大学）
　　上宮　愛　　（金沢大学）
　　和智　妙子　（駿河台大学）
指定討論者　　奥野　雄一郎（大阪地方検察庁）

近年、裁判における心理学者の関わりが増している。被告人の心理鑑定に関しては、実務の経験を積んだ心理学者が鑑定人として関わるケースが以前より見られていたが、近年では、被告人の心理鑑定に限らず、より多様な分野で、多様な専門性を持った心理学者が専門家証人として裁判に関わるケースが見られるようになってきた。しかし、心理鑑定の種類によっては、様々な問題点もみられる。

そこで、本シンポジウムでは、実際に専門家証人として裁判に携わっていらっしゃる先生方をお招きし、専門とされている心理鑑定の詳細や、鑑定や裁判で証言を行う上での困難さや課題について、話題を提供して頂く。指定討論の先生には、検察官の立場から、裁判において専門家としての心理学者に求めることや心理鑑定の課題についてご意見を頂き、フロアの皆さまと今後の心理鑑定や裁判における心理学者のあり方について議論を深めたい。

大会企画ミニ・シンポジウム４

8月３１日（日）　13：00～15：00　**１２号館１階　１２１０２**

裁判・審判の過程におけるアセスメントを中心とした心理と福祉の連携、協働、課題を考える

企画・司会　藤川　浩　（駿河台大学）
戸井　宏紀　（東洋大学）
田中　教仁　（駒沢女子大学）
話題提供者　岡　大輔　（さいたま家庭裁判所）
坂野　剛崇　（大阪経済大学）
澤　陽子　（東京社会福祉士会司法福祉委員会）

昨今の非行・犯罪の発生のメカニズムは複雑化し、非行・犯罪をした者には多様な心理的、社会的問題を抱えた者が少なくない。これまで、少年事件においては、少年鑑別所の鑑別とともに、家庭裁判所調査官の社会調査が科学的調査機能を発揮し、少年の心理的社会的アセスメントを行っている。また、昨今の刑事裁判においては、裁判員裁判事件を中心に、犯罪に至った背景要因について心理学的な分析を求める情状鑑定が増加傾向にあり、さらに、障害者や高齢者の犯罪においては、司法ソーシャルワーカーによる更生支援計画の作成等の関与により、福祉的支援の模索が行われるようになってきた。今後、ますます、非行や犯罪をした者のアセスメントと更生支援には、犯罪心理学と福祉の協働、連携が重要となってこよう。

本シンポジウムでは、話題提供者として、少年司法、情状鑑定、更生支援計画などの領域における専門職を予定し、少年事件を含めた刑事司法の裁判・審判過程におけるアセスメントに焦点を当て、また、アセスメントの結果の処遇及び社会復帰支援への寄与も視野に入れつつ、人間行動科学の専門家としての心理専門職と福祉専門職の協働、連携をテーマにした議論を展開することを考えている。

公募ミニ・シンポジウム

公募ミニ・シンポジウム１

8月３０日（土）　10：00～12：00　**１３号館２階　１３２０１**

臨床犯罪心理学における感情労働 Ⅳ

―専門家が育つこと、育ってからのこと―

企画・司会　　門本　泉　　（大正大学）
話題提供者　　浦尾　洋旭　（東京少年鑑別所）
　　栗林　靖彦　（東京家庭裁判所）
　　小平　真希　（さいたま市南部児童相談所）

同テーマで連続で組んできたシンポジウムの最終回である。専門家の育成とスーパービジョンを中心的話題に取り上げる。司法領域で働く心理職の成長・成熟には、入職後数年の指導で十分なはずはなく、その後の継続的な訓練、成長へのサポートの重要性は強調してもし過ぎることはない。むしろ年次が上がるほど難しいケースに出会ったり、重大事件を担当したり、臨床と並行させて管理的な業務をせざるをえなくなったり、家庭、健康、経済面も含めさまざまな人生の苦労も増えるのが通常だろう。つまり、若年時とは異なる課題があり、悩み、傷つき、不安など多くの感情労働が生じる可能性がある。ところが、中堅以降の訓練やスーパービジョン（知識やスキル修得のみでなく、情緒的な支持も含める）、あるいはスーパービジョンのスーパービジョンがいかに実現されるべきかについては、いまだ知見も議論も不足している状態にある。

そこで本シンポジウムでは、領域の違う経験豊かな３氏（矯正施設の法務技官、家庭裁判所調査官、児童心理司）をお迎えし、非行・犯罪にかかわる領域で中堅やベテランになってからのスーパービジョンニーズ、あるいは長期的な視野からみた包括的育成課題について、夢も含めて思うところを存分に語っていただくこととしたい。今回も、指定討論者は設けず、後半は、シンポジストとフロア全体による自由な討論を行う予定である。

公募ミニ・シンポジウム２

8月３０日（土）　10：00～12：00　**１３号館２階　１３２０２**

犯罪者が人生を物語ること

―臨床と研究から立ち直りのヒントは見つかるか―

企画・司会	大江　由香	(立教大学)
話題提供者	平野　貴子	(府中刑務所)
	糸井　岳史	(路地裏発達支援オフィス、川越少年刑務所)
	越智　啓太	(法政大学)
指定討論者	大江　由香	(立教大学)

犯罪・非行臨床においては、調査や鑑別、指導、個別面接といった様々な場面で犯罪者や非行少年に自分の過去を振り返らせ、語らせる。しかし、この当たり前のように行われているプロセスの目的や意義、効果などについて、深く考えたことや科学的根拠を調べたことはあるだろうか。また、様々な心理療法の中に過去を振り返ることが取り入られ、様々な心理学領域において過去を振り返ることが研究されているが、そこから犯罪者・非行少年の立ち直りにつながるヒントを得られないだろうか。

上記のテーマについては、2023 年の本学会大会企画シンポジウムにおいて一度議論されている。本シンポジウムでは、前回シンポジウムに登壇した犯罪臨床に携わる実務家と犯罪について幅広い知見を有する研究者が再び集い、各自が前回の発表からさらに整理・発展させてきた意見・考察等を持ち寄って、犯罪者・非行少年が過去を振り返る際の特徴や、過去を振り返る意味について検討する。さらに、犯罪からの離脱に関連するセルフ・ナラティブや、犯罪からの離脱が進む段階等と照らし合わせながら、犯罪者・非行少年の人生語りを立ち直りにつなげる方法、特に注意すべき犯罪者・非行少年の特性、介入のポイントなどについても議論する。

公募ミニ・シンポジウム３

8月３１日（日）　10：00～12：00　**１２号館１階　１２１０４**

多様な性犯罪の現状と対策:加害者臨床と被害者臨床の最前線

企画・司会	原田　隆之	（筑波大学人間系）
話題提供者	齋藤　梓	（上智大学総合人間学部）
	鈴木　拓朗	（富山大学人文学部）
	森田　太樹	（榎本クリニック）
	原田　隆之	（筑波大学人間系）

毎年のようにさまざまな性犯罪、性暴力の問題が大きな社会問題となっている。大手芸能事務所の未成年を含むタレントへの性加害事件、テレビ局の女性アナウンサーに対する著名タレントの性加害やセクシャルハラスメントなどは大きな社会問題として今なお社会を揺るがし続けている。さらには、ストーカー事件、痴漢・盗撮事件、子どもに対する性加害などの性犯罪も毎日のように起こっている。

こうした性犯罪に対し、刑法の構成要件の改正や厳罰化などの対策が講じられている一方で、治療や予防に関する対策は一向に進んでいない。また、社会に対する啓発活動なども十分であるとはいえない。

たとえば、加害者臨床のできる専門家や施設はきわめて限られているし、被害者臨床においても専門家はまだまだ少ないうえ、被害者へのバッシングなどの二次被害の問題も深刻である。

本シンポジウムでは、こうした多様な性犯罪の問題について、加害者臨床、被害者臨床の最前線で活躍する専門家・研究者がその実践と最新の研究報告を行い、その現状と課題について議論する。

公募ミニ・シンポジウム４

8月３１日（日）　10：00～12：00　**１３号館１階　大講義室（13101）**

犯罪心理学の研究を本格的に始める人のために

企画・司会	岡本　英生　（奈良女子大学）
話題提供者	北原　安佳理（矯正研修所効果検証センター）
	白方　斎来　（矯正研修所効果検証センター）
	金井　大典　（奈良県警察本部）
	中迫　綾香　（福岡少年鑑別所）
	金田　直之　（名古屋大学大学院）
指定討論者	岡本　英生　（奈良女子大学）
	島田　貴仁　（滋賀大学）
	松本　佳久子（武庫川女子大学）
	河野　荘子　（名古屋大学）
	宇都宮　敦浩（創価大学）

本シンポジウムは研究委員会による企画として、犯罪心理学に関する研究をこれから本格的に始めようとしている若手の方を対象に、各自が構想中の研究プランの完成度を高める作業を共同で行う。具体的には、若手の方（話題提供者）が構想中の研究プランを発表し、それに対して経験を積んでいる研究者たち（指定討論者）がアドバイスなどを行い、研究の将来的な成功を導く。フロアからもぜひ的確なアドバイスをお願いしたいが、ご注意いただきたいのは、ただ欠点を指摘するだけではなく、「このようにすればもっとよい」といった建設的な意見を出してほしいということである。今回の試みにより、ますます犯罪心理学のすばらしい研究が数多く行われることを期待している。

公募ミニ・シンポジウム５

8月３１日（日）　13：00～15：00　**１２号館１階　１２１０１**

矯正施設における再犯防止指導に力動的集団精神療法を活用することの効果とそれを実践できる職員の育成を考える

企画	辻　啓之	（姫路少年刑務所）
司会	門本　泉	（大正大学）
話題提供者	犬塚　貴浩	（大阪刑務所）
	松岡　裕介	（加古川刑務所）
	辻　啓之	（姫路少年刑務所）
指定討論者	ジェイムス　朋子	（京都橘大学）

刑務所等の矯正施設では被収容者の再犯リスクを下げる目的で、複数の被収容者でグループを作り、職員が様々な指導を行っている。その指導において、受講者の思わぬ言動によって、予定通りに指導を進められなくなることは珍しくない。そのような事態は、受講者がカリキュラムの進め方や指導に当たる職員に反発して生じることもあれば、受講者同士がいがみ合うことで生じることも、受講者が目先の楽しさを求めることによって生じることもある。そのような事態に直面した際、力動的集団精神療法においては、受講者個々人とグループの目標達成のためにその事態を積極的に活用する。つまり、一見行き詰まりに見えるその事態の中に、受講者の再犯につながるリスク力動と再犯離脱の力動の両方を見出し、意味のある事態として積極的に参与していくのである。

本シンポジウムでは、矯正施設で再犯防止指導に携わってきた三人から、どのようなところに力動的集団精神療法の知識や技術の必要性を感じるか、その技術をどのように学び、使ってきたかといったことについて、話題提供を受ける。それらに対し、長年にわたって数多くの矯正施設でスーパーヴィジョンを提供してきたジェイムス氏から指定討論を受けた後、フロアも含めた参加者全員で指導者の育成を中心に話し合いたい。

公募ミニ・シンポジウム６

8月３１日（日）　13：00～15：00　**１２号館１階　１２１０３**

犯罪心理学研究における data visualization 2

企画・話題提供者　　小野　修一　（山口県警察本部科学捜査研究所）
平間　一樹　（科学警察研究所）

実務に携わる会員が多い犯罪心理学会では、必ずしも研究用に収集される訳ではない実務データを扱った研究も多い。実務データからは、探索的な分析によって現状を正確に把握したり、新たな研究仮説の手がかりを得ることができるが、その中でデータの可視化は重要な手続きとなる。データの可視化は、さまざまなデータの特徴を専門の異なる他者とも共有しやすくし、分析結果の正確な伝達にも貢献することから、研究場面に限らず、実務支援や政策実現のための意思決定場面において、エビデンスに基づいたコミュニケーションを促進するだろう。

本シンポジウムは昨年度シンポジウム「犯罪心理学研究における data visualization」（データの可視化による誤謬の発見、R を使った具体的な可視化の方法、可視化の際の着眼点、地理的要因を含むデータの可視化）の続編として開催する。これら前回の内容を踏まえつつ、データの可視化のための考え方に加え、実践的な手法や分析方法の紹介を行う。なお、本シンポジウムでは、昨年度同様に R によるデモコードを提供しながら行う。デモについては、R、各パッケージ（tidyverse、sf 等）を使用可能な状態であることを前提としているため、下記リンク先に公開予定の資料等を参考にご準備いただくことをお勧めする。

なお、昨年不参加の方でも問題なく参加可能であるため、ご興味のある方はぜひご参加いただきたい。

【資料の公開先】

https://drive.google.com/drive/folders/144El0K_L8Tutk9gVV88NxZXLAlVCbPUr?usp=drive_link

公募ミニ・シンポジウム７

8月３１日（日）　13：00～15：00　**１２号館１階　１２１０４**

非行・犯罪におけるいじめ被害者・加害者への支援

企画・司会	永房　典之	（淑徳大学）
話題提供者	志賀　賢一	（東京少年鑑別所・東京法務少年支援センター）
	山岡　あゆち	（東京大学）
	堀尾　良弘	（愛知県立大学　名誉教授）
指定討論者	藤本　哲也	（公益財団法人　矯正協会）
	永房　典之	（淑徳大学）

少年非行や犯罪の背景には、しばしば子ども時代のいじめ経験が潜在していることが考えられる。いじめ被害が長期的な心理的外傷として残り、やがて加害行動や逸脱行動へと転化するケースや、加害者自身が家庭や地域で被虐待経験や社会的孤立を抱えている問題もあるのではないだろうか。本シンポジウムでは、いじめ被害者・加害者それぞれに対する支援の視点から、非行・犯罪との関連を検討する。

学校現場では、「いじめ防止対策推進法」（平成 25 年法律第 71 号）の趣旨を踏まえ、いじめの防止や再発防止に取り組むことがより求められるようになった。文部科学省の「生徒指導提要」（令和４年 12 月）では、いじめも含めた生徒の学校内外での非行等困難な課題への対応に係る地域の連携先として、法務省の「法務少年支援センター」が明記された。 また、いじめは学校だけでは対応が困難な場合もあり、警察庁（生活安全局、令和６年１月）は、学校や教育委員会等との緊密な連携を図り、早期把握と情報共有等に向けた警察活動の充実を図る必要性に言及している。

本企画は、いじめの被害者・加害者への支援の在り方を模索し、地域での関係機関の連携による包括的支援の可能性を探る。また、矯正や更生保護など非行・犯罪にかかわる専門的立場から、いじめと非行・犯罪への実務や研究のあり方について示唆に富む議論の場となることを目指す。

公募ミニ・シンポジウム８

8月３１日（日）　13：00～15：00　**１３号館２階　１３２０１**

刑事施設における投影法の活用状況と今後の発展について

企画・司会　　鈴木　純一　（月形刑務所）
話題提供者　　三浦　公士　（静岡少年鑑別所）
　　元木　良洋　（東京拘置所）
　　家﨑　哲　　（府中刑務所）
　　塩﨑　琢人　（札幌刑務所）
指定討論者　　佐々木　玲仁（九州大学大学院人間環境学研究院）

投影法は、様々な臨床現場で用いられている心理検査の一形式であるが、対象者理解を深めるだけでなく、対象者自身の自己理解を促進する面もある優れた方法である。熟練した先達によるケースを通じ、投影法を用いたからこそ得られた豊富な情報に、臨床家であれば誰しもが大きな感銘を受けた経験を有しているのではないだろうか。

投影法には、その習得が「心理面接の基盤ともなる」との指摘があることを踏まえると、心理職の資質や技能の向上と密接に結び付く、いわば要の能力であると言っても過言ではない。我々が所属する刑事施設では、令和７年６月から「拘禁刑」が開始となり、対象者一人一人についての一層適正かつ細やかな理解が求められるところ、今後、投影法が果たす役割はますます大きくなることが期待される。

本シンポジウムでは、近年の刑事施設における心理アセスメント全体の概況を見つつ、投影法の実施状況について現場で勤務する心理技官に話題提供してもらい、更には、投影法に精通している佐々木玲仁先生を指定討論者に迎え、投影法を使用する意味や意義を見つめ直し、未来の刑事施設における投影法の活用について検討したいと考える。

なお、本シンポジウムには、日常的に投影法を実施している方だけでなく、投影法に興味があっても一歩踏み出せない方、そして、投影法に懐疑的・批判的な思いを持っている方の参加も期待し、一緒に討議を深めたい。

公募ミニ・シンポジウム９

8月３１日（日）　13：00～15：00　**１３号館２階　１３２０２**

社会内で再犯防止支援を有効に実践するには

―円滑な多職種協働を基盤とした加害者臨床―

企画・司会	谷本　拓郎	（佛教大学）
話題提供者	樋口　雅明	（鹿児島少年鑑別所）
	小出　伸行	（岡山少年鑑別所）
	福地　直人	（はなさか相談室）
	谷本　拓郎	（佛教大学）
指定討論者	歳森　薫夫	（法務省矯正局）

非行・犯罪の防止に向けた指導・教育・治療は、矯正施設、更生保護関連施設、その他民間支援団体など、多様な場所で実践されている。犯罪加害者が、二度と犯罪に手を染めずに、健全な生活を維持し、豊かな人生を歩むためには、法令に則った処分を全うした後も、必要な指導・支援を提供する枠組みが重要である。さらに、支援者側が効果的な支援を確実に対象者に提供するポイントを理解しておくことも、再犯防止支援を奏功させる上で不可欠と言える。

そこで、本企画では、最初に、矯正実務に従事する専門家から、矯正施設が地域コミュニティと連携して再犯防止に取り組む意義について、支援例を挙げた上で報告する（担当：樋口雅明氏・小出伸行氏）。次に，犯罪加害当事者の視点と支援者の視点をいかに融合させ、支援の充実化を図るかについて民間支援者の立場から報告する（担当：福地直人氏）。さらに、社会内の犯罪リスク低減に向けた取り組みについて、犯罪リスクのある当事者のみならず、支援者や地域社会への理解を促す取組についても報告する（担当：谷本拓郎氏）。これらの話題提供を踏まえ、産官学をはじめとした多機関連携・多職種協働を現に推進する立場から指定討論を行い、今後の再犯防止支援のあり方について検討する（担当：歳森薫夫氏）。

公募ミニ・シンポジウム１０

8月３１日（日）　13：00～15：00　**１３号館１階　大講義室（13101）**

民間施設における性犯罪再犯防止に向けた認知行動療法の活用

企画	浅見　祐香	（目白大学）
司会	西中　宏吏	（早稲田大学）
話題提供者	浅見　祐香	（目白大学）
	荒木　龍彦	（ジャパンマック）
	野村　和孝	（北里大学）
	谷　真如	（法務省保護局）
指定討論者	齋藤　梓	（上智大学）
	嶋田　洋徳	（早稲田大学）

被害者の尊厳を著しく踏みにじる行為であり、心や体に大きな悪影響を及ぼす性犯罪は、再犯防止対策の拡充が重要な課題である。法務省は 2023 年、性犯罪の再犯防止に向けた地域ガイドラインを策定して、刑事司法手続き終了後も地域社会において継続的な支援が受けられる環境の整備を進めている。しかしながら、知識不足や対応する職員の不足などを理由として、性犯罪の再犯防止に向けた取組を実施している地方公共団体は約半数にとどまる現状にある（MRI、2023）。さらに、医療機関や依存症回復支援施設などの民間施設においては、地域住民からの理解の得られにくさなども影響して、性犯罪をした者を受け入れる施設の少なさが課題となっている。

この点に関して、性犯罪に対する再犯防止の有効性が示されている認知行動療法では（Rocha & Valenca、 2023）、個のアセスメントに対応した支援を展開するという特徴がある。そのため、個人と環境との相互作用に着目することによって、現在の環境下におけるひとりひとりの具体的なリスクを同定するとともに、リスクに応じた支援技法を用いることが可能になるという利点がある。

そこで、本シンポジウムでは、民間施設における性犯罪をした者に対する認知行動療法の実践に関する研究や取り組みなどを通して、性犯罪の再犯防止に向けた地域社会における支援機能の強化について検討することを目的とした。

口頭発表（一般）1　処遇

8月３０日（土）　10：00～11：45　**12 号館１階　１２１０１**

座長：原田　隆之

山岡　あゆち

10：00～　〇1-1　**男性出所者の就労ニーズに関する支援者調査**　○山岡 あゆち　（東京大学）

男性出所者の就労に関する課題や支援ニーズを、更生保護施設の職員, 就労支援事業者, 協力雇用主といった支援者へのインタビュー調査を通じて探索的に明らかにする。

10：15～　〇1-2　**受刑者処遇に関する一般市民の認識調査**　○菅野 哲也　（矯正協会矯正研究室）

受刑者処遇に関する Web 調査では約 7 割が教育的処遇を支持しながら、同時に 8 割が厳罰を支持していた。これを存在論的不安概念に沿って解釈し、刑務所の役割を考察する。

10：30～　〇1-3　**食行動異常等の疾患を持つ高 ACE 女子少年院在院者に対する効果的な介入についての研究**　○土ヶ内 一貴　（青山学院大学）

公的統計によれば摂食障害者の窃盗の再犯率は高く効果的な介入が困難である。本報告は ACE を有する若年被収容者への介入手法として内観療法の有用性について検討する。

10：45～　〇1-4 **高齢受刑者に関する国外の研究動向**　○湖城 孝宗　（三重刑務所）

本発表では，60 歳以上の高齢受刑者を対象とした諸外国の論文から得られた知見をテーマ別にまとめ，我が国での彼らへの研究の方向性を検討した。

11：00～　〇1-5 **無期懲役受刑者を対象とした特別改善指導「被害者の視点を取り入れた教育」**　○畑村 晶子　（長野刑務所）

高木 慧　（長野刑務所）

の在り方に関する調査・研究について

受刑者の特性に応じた指導を展開するため、無期懲役受刑者に対する「被害者の視点を取り入れた教育」の在り方の検討・プログラム内容を策定するための研究第１弾とする。

11：15～　〇1-6 **フィリピンにおける覚醒剤依存症治療プログラムの開発と評価**　○原田 隆之　（筑波大学）

フィリピンは世界で最も覚醒剤乱用が深刻な国の１つである。我々は、JICA プロジェクトとして、治療プログラムを開発し、ランダム化比較試験によってその効果を検討した。

11：30～　〇1-7 **不同意性交等による受刑者の出所後５年再犯率の動向**　○遊間 義一　（愛知大学短期大学部）
金澤 雄一郎　（国際基督教大学）

2006 年から 2023 年までの矯正統計年報を用いて，不同意性交等により刑事施設に入所し，満期または仮釈放で出所した男子受刑者の５年間再犯率の動向を検討し，R3 処遇等による働きかけの効果を考察する。

口頭発表（一般）2　非行・犯罪観／防犯・被害・地域

8月３０日（土）　10：00～11:30　**１２号館１階１２１０２**

座長：谷口 五郎

向井 智哉

10：00～　○2-1 **少年鑑別所入所者の認知情動行動リスク・対人環境のクラスタパターンと反社会的行動との関連**

少年鑑別所入所者を対象に、認知情動行動リスクや保護者・教師・友人・地域住民との対人環境のクラスタパターンと罪種・再犯歴・自己報告反社会的行動との関連を検討した。

○吉澤 寛之（岐阜大学大学院）
反中 亜弓（名古屋少年鑑別所）
吉田 琢哉（岐阜聖徳学園大学）

10：15～　○2-2 **被害者の性別による有罪判断および量刑判断の相違：ハードルモデルを用いた検討**

本研究は，不同意性交事案において，被害者の性別が市民の法的判断に与える影響を検討した。結果，被害者が男性である場合，有罪判決率が低く，求められる刑も軽かった。

○向井 智哉（福山大学）

10：30～　○2-3 **受刑者のスティグマへの対処戦略及び非行や犯罪からの離脱との関連　ー再入男子受刑者を対象としたシナリオ研究に向けた試みー**

受刑者におけるスティグマ経験やセルフスティグマについて探索的に調査し、スティグマへの対処戦略及び犯罪や犯罪からの離脱との関連を探るためのシナリオ研究を試みる。

○北原 安佳理（矯正研修所効果検証センター）
鈴谷 真美（矯正研修所効果検証センター）
白方 斎来（矯正研修所効果検証センター）
佐々木 彩子（矯正研修所効果検証センター）
渡邉 篤（福島刑務所）
九里 真緒（元矯正研修所効果検証センター）
鷹野 莉沙（福島少年鑑別所）
星 秀和（福島少年鑑別所）

10：45～　○2-4 **性犯罪者の共依存の経験（「性犯罪者治療プログラム体験報告」から）**

樹月カイン「性犯罪者治療プログラム体験

○中村 修（川越少年刑務所，府中刑務所）

報告」を KJ 法によって分析することによって、①共依存を自認することの意味②共依存の自認による治療の可能性について探求する。

11：00～　〇2-5 **法務少年支援センターにおける個人援助の終結に関する調査研究**　○谷口 五郎　（広島少年鑑別所）

心理的援助においていつどのような形で終結を迎えるかということは重要な課題であるところ、法務少年支援センターにおける個人援助の終結に関する特徴を報告する。

11：15～　〇2-6 **犯罪被害者支援における継続的支援の必要性に関する一考察**　○辻 茜音　（京都光華女子大学大学院）
谷本 拓郎　（佛教大学）

犯罪被害者支援センター相談員への自由記述調査等の結果から、犯罪被害者への継続的支援が困難な原因を検討することで、より有効かつ適切な支援の在り方について考察する。

口頭発表（一般）3　各種犯罪・犯罪者・捜査

8月３０日（土）　10：00～11：45　**１２号館１階　１２１０３**

座長：大塚 朋美

濱井 浩一

10：00～　〇3-1 **少年院・少年刑務所における NHK 調査から見えてきた闇バイト関連被収容者の特徴**　○濱井 浩一　（龍谷大学）

筆者は、2025 年に NHK が少年院と少年刑務所で実施した闇バイトに関する質問紙調査に専門家として協力した。両施設における闇バイトに関わった被収容者の特徴について報告する。

10：15～　〇3-2 **時系列の整理が目撃者の報告および認知的負荷に及ぼす影響**　○古橋 健悟　（科学警察研究所）
横田 賀英子　（科学警察研究所）
大塚 祐輔　（科学警察研究所）
平間 一樹　（科学警察研究所）
渡邉 和美　（科学警察研究所）

本発表では、オンライン上において目撃した出来事を報告する場面を想定し、時系列の整理等の質問形式が報告内容、報告者の認知的負荷に及ぼす影響を検討する。

10：30～　〇3-3 **知的障害を有する被害者への捜査面接―警察官の事前態度**　○横田 賀英子　（科学警察研究所）
古橋 健悟　（科学警察研究所）
大塚 祐輔　（科学警察研究所）
平間 一樹　（科学警察研究所）
渡邉 和美　（科学警察研究所）

警察官対象の質問紙調査で得られたデータを分析した結果を元に、知的障害を有する被害者の聴取に対して、警察官が感じている困難や実際に行っている工夫について報告する。

10：45～　〇3-4 **発生地の特徴が Journey to Crime Distance に与える影響 －東京都内で発生した性犯罪に関する検討－**　○渡邉 和美　（科学警察研究所）
平間 一樹　（科学警察研究所）
横田 賀英子　（科学警察研究所）
大塚 祐輔　（科学警察研究所）
古橋 健悟　（科学警察研究所）

性犯罪に関する発生地周辺エリアの国勢調査情報、刑法犯認知件数、刑法犯検挙被疑者数等の特徴が Journey to Crime Distance に与える影響を検討する。

11：00～　○3-5 **わいせつ目的事件の事件リンク分析**　○大塚 朋美　（神奈川県警科捜研）

―捜査初期状況での活用法の検討―

わいせつ目的事件について罪種横断的な事件リンク分析を行った。捜査初期段階を想定したデータに、前報までの分析結果を活用し、その有効性を検討した。

11：15～　○3-6 **教員の性暴力加害のプロセス**　○今井 由樹子　（奈良大学）

山脇 望美　（人間環境大学）

教員の性暴力加害の予防方策が期待されているが、教員性加害の心理学的研究は極めて少ない。加害教員面接記録を質的研究法で分析し、性加害のプロセスについて報告する。

11：30～　○3-7 **特殊詐欺事犯の実態解明ーSNS 利用に着目してー**　○宇田川 尚子　（東北大学・法）

警察により検挙された特殊詐欺事犯について、警察資料を基礎に、被疑者の生活環境、犯行の動機、用いられた通信手段等について、定性的な調査を行った結果を発表する。

口頭発表（一般）４　事例

8月３０日（土）　10：00～12：00　**１２号館１階　１２１０４**

座長：川端 壮康

10：00～　〇4-1 **少年時代に非行歴のある者が向社会的行動を志すに至ったプロセス**
非行の経験のある方に対してインタビュー調査等を実施し、成人して社会生活を営む中で、非行少年を支える活動に関心を向けるに至った内面などの変化について分析した。
○樋口 雅明（鹿児島少年鑑別所）

10：30～　〇4-2 **刑事施設出所後に社会的絆の獲得と喪失を経験した男性の離脱プロセス**
暴力事犯で服役し，出所後に社会的絆の獲得と喪失を経験しながらも社会適応を維持する男性の犯罪からの離脱プロセスを複線径路等至性モデルの手法を用いて分析する。
○高野 光司（帝京平成大学）

11：00～　〇4-3 **障害を有する受刑者グループにおける音楽とコラージュを組み合わせた対話促進の実践における臨床的変化の検討**
拘禁刑創設に係る福祉支援課程（DH 課程）の指定試行庁として、障害を有する受刑者の特性に応じた音楽療法とコラージュを試行した。言語非言語的に対話が促進した経過を検討する。
○松本 佳久子（武庫川女子大学）
松元 雅子（神戸刑務所）
星野 芳之（神戸刑務所）
土田 文裕（大阪拘置所）

11：30～　〇4-4 **盗撮、露出行為における抑圧感情とタブーの心理**
本研究では、盗撮、露出を行った加害者らの事例を通して、制限的禁止による抑圧感情を侵してはならない禁忌、タブーとして社会の中で引き起こす過程を分析的に考察する。
○中村 大輔（神戸臨床心理カウンセリングルーム研心音，兵庫県議会議員）

口頭発表（一般）５　事例／査定・評価　等

8月３１日（日）　10：00～12：15　**１２号館１階　１２１０２**

座長：籔内 秀樹

家﨑 哲

10：00～　○5-1 **音楽を媒介とした対話実践による臨床的変化の検討「大切な音楽の語り」を巡る一考察**

受刑者との対話実践の１つとして取り組んだ「大切な音楽の語り」の事例を取り上げ、語られた内容の意味生成と変容がもたらす臨床的変化を探索的に検討する。

○篠山 義郎（加古川刑務所）
安部 尚子（加古川刑務所）
松本 佳久子（武庫川女子大学）

10：30～　○5-2 **ハンドテストによる協働的動機づけアセスメントの提案ー非行臨床における事例を用いてー**

自己理解や行動変容を目的に協働的アセスメントと動機づけ面接の理論や技法を用いてハンドテストを実施する方法を提案し、非行臨床事例を用いて検討を行う。

○川口 拓馬（高知家庭裁判所）
佐々木 裕子（自治医科大学医学部総合教育心理学）

11：15～　○5-3 **精神障害を有する被収容者の職員に対する暴力リスク要因の検討**

刑事施設職員の施設内暴力被害の防止を目的に、精神障害を有する被収容者が職員に暴力を振るうリスク要因について、精神科診断名等に着目した調査を通じて検討する。

○籔内 秀樹（仙台少年鑑別所盛岡少年鑑別支所）
籔内 真理子（盛岡少年刑務所）

11：30～　○5-4 **男性受刑者の自己申告発達障害傾向の特徴についてーCATI-J の適用を中心とした検討ー**

CATI-J は ASD 特性を把握するために，DSM-5 などの最新の知見を取り入れて作成されたツールである。日本の男性受刑者へ

○鈴木 純一(月形刑務所)
坂本 敦史(青森少年鑑別所)
佐々木 翔規(旭川少年鑑別所)
白川 あずさ(札幌刑務所)

の適用に向け，各種発達障害スケールなどとの関連性を含めて検討した。

11：45～　○5-5 **バウムテスト３枚法における「夢の木」の意味について**　○家﨑 哲　（府中刑務所）

バウムテスト３枚法では、３枚目で「夢の木を描いてください。」という教示を行うが、「夢の木」とは一体何だろうか？各描画時間等を比較し、その意味について検討する。

12：00～　○5-6 **子供に対する性犯罪の予防対策に関する一考察**　○大江 由香　（立教大学現代心理学部）

子供に対する性犯罪者の発生の予防は容易ではない。本研究では，文献研究を行って子供に対する性犯罪予防対策の国内外の動向を整理し，有効な予防対策について考察する。

犯罪を生む心、社会を守る心
心理学ビジュアル百科　司法・犯罪心理学編
大上 渉 編　定価3,960円(税込)
人間のダークサイドを解き明かし、対処を図る学問分野として高い関心が寄せられている司法・犯罪心理学。本書では、犯罪原因論から犯罪捜査、防犯、裁判、矯正処遇、犯罪被害者支援まで、社会の様々な難問に取り組みながら大きな発展を見せているその全貌を紹介する。本文オールカラー。

逆引き！心理学研究法入門
自分の知りたいことから研究手続きを選べるようになる本
白井祐浩著　定価4,950円(税込)
心理学の研究法にはどのようなものがあり、それで何を明らかにできるかという通常の説明の流れとは逆に、自分の目的に合った研究法を選択できるよう、研究に必要な個々の手続きを目的の設定から順を追って具体的に解説する。これから論文を書く人はもちろん、論文指導を行う教員は必携の一冊。

心理学ビジュアル百科シリーズ
心理学ビジュアル百科
越智啓太 編　定価 3,520 円 (税込)
意識的な行動の無意識的な理由　認知心理学編
越智啓太 編　定価 2,640 円 (税込)
私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか　社会心理学編
越智啓太 編　定価 2,970 円 (税込)

好評新刊書
プロカウンセラーの人を見る技術
福島哲夫 著　定価 1,760 円 (税込)
プロカウンセラーの賢く怒る技術
杉原保史 著　定価 1,760 円 (税込)
感情処理法で心がすっきりするノート
倉成宣佳 著　定価 1,760 円 (税込)

〒541-0047　大阪市中央区淡路町 4-3-6
Tel.06-6231-9010
創元社
http://www.sogensha.co.jp/
こころのページ　\随時更新中/
www.sogenshakokoro.com

ポスター発表１　１日目　処遇／非行・犯罪観／査定・評価　等

8月３０日（土）　10：00～12：00　**１２号館１階　ホール**

責任在籍時間　演題番号　奇数　10:00～11:00

偶数　11:00～12:00

※要旨、所属等はエントリー記載のとおり。番号には、一部、調整用の欠番があります。

1　**障害特性に応じた処遇が受刑者に与える影響についての検討ー統合失調症を有する受刑者に対するバウムテスト３枚法の継続実施結果からー**

○塩﨑 琢人（札幌刑務所）

刑務所で開始した精神障害を有する対象者に特化したユニット処遇が統合失調症の受刑者に与えた影響を３枚法バウムテストを継続的に実施した結果から検討した。

2　**非行少年におけるマインドフルネスと共感性の関連の検討**

○三住 倫生（多摩少年院）

本研究では，少年院に在院する非行少年を対象に，マインドフルネスの程度と被害者共感性の程度の関連性について検討することを目的とする。

3　**高齢福祉課程におけるフレイル予防体操の効果検証**

○渡邉 篤（福島刑務所）
高野 洋一（福島刑務所）
星 秀和（福島少年鑑別所）

高齢福祉課程における改善指導の一環としてフレイル予防体操を実施した。身体機能等低下の程度による体操の主観的効果の差異について検討し、高齢福祉課程の充実化を図る**。**

4　**懲戒処分及び少年院入院歴が再入院率に与える影響**

○天野 快（大分刑務所）

少年院内の懲戒処分が再入院率に与える影響について、COX 回帰分析を行った結果、有意な結果が得られた。さらに、少年院入院歴ごとに検討すると初回入院時のみ有意な結果が得られた。

5　**犯罪加害者臨床における力動的集団アプローチの効果に関する文献的検討-a scoping review-**

○田岡 未里（京都橘大学大学院健康科学研究科）
吉川 寛（京都橘大学大学院健康科学研究科）
ジェイムス 朋子（京都橘大学）

その臨床的な効果と意義について検討することを目的として、犯罪加害者臨床における力動的アプローチに関する研究を対象としたスコーピングレビューを行った。

6　**性的逸脱行動の問題を抱える知的障害・発達障害を持つ人のためのグループミーティングの実践**

○松野 翔平（大通公園メンタルクリニック）

痴漢や盗撮等の性的逸脱行動の問題を抱える触法者等のグループミーティングプログラムの実践について，参加者へのインタビュー等を踏まえて考察を行った。

7　**コーピングの柔軟性が非行からの立ち直りに及ぼす影響２**

○河野 荘子（名古屋大学大学院）
岡本 英生（奈良女子大学生活環境科学系）

コーピングの柔軟性を高めることは、再非行防止につながるのではないか。本研究では、コーピングの柔軟性が、不当な扱いを受けた時に生起する感情にどのように影響するのか検討する。

8　**犯罪加害者の子供に対する非難感情の背景要因**

○篠原 夢穂（奈良女子大学大学院）
岡本 英生（奈良女子大学）

犯罪加害者の子供に対する非難感情が，加害者の動機や子供の特性といった要因，そして回答者側の個人特性からどのように影響を受けるのか検討する。

9　**ストレスコーピング、罪悪感及び共感性が社会的逸脱行為に及ぼす影響**

○斎藤 夏野（奈良女子大学大学院）
岡本 英生（奈良女子大学）

社会的逸脱行為に対するストレスコーピング、罪悪感、及び共感性が社会的逸脱行為に及ぼす影響を大学生を対象に検討する。

10　**家庭ストレスと親の道徳権威尺度の作成**

○尹 暁佳（関西大学大学院心理学研究科）
藤田 政博（関西大学社会学部）

本研究は，家庭ストレス及び親の道徳権威を測定するための尺度を作成し，先行研究から項目を収集し，心理学者のレビューを経て，日本語に翻訳し，その信頼性と妥当性を検討した。

11　**鑑別において実務上指摘される少年の問題点についての探索的研究（３）ー問題点の類型化の試みについてー**

○松田 慎之介（千葉少年鑑別所）
三浦 公士（静岡少年鑑別所）
那須 昭洋（千葉少年鑑別所）
楠瀬 拓紀（和歌山少年鑑別所）

「鑑別において実務上指摘される少年の問題点についての探索的研究（１）」において、３２項目の問題点が挙げられたところ、これらの項目について問題点の類型化を試みる。

12　**日本人におけるインターネット上のセクシュアルハラスメントに対する認識と態度 ―日中比較に着目する―**

○汪 楽琳（東洋大学）

本研究は日中比較による日本人のネット場面におけるセクシュアルハラスメントに対する認識と態度の特徴を調査するものである。

13　**闇バイトと女性受刑者に関する一考察**

○高橋 典子（福島刑務支所）
高野 洋一（福島刑務所）
星 秀和（福島少年鑑別所）

闇バイトに関わり受刑中の女性に対して、アンケート調査及びインタビュー調査を行い、小児期逆境体験や職業経験、自殺・自傷歴等との関連性を考察する。

14　**日本における「非行からの立ち直り」の概念分析**

○坂野 剛崇（大阪経済大学）

2000～2024 年の「非行から立ち直り」に関する研究論文を、概念分析（Walker & Avant , 2005/2008）を用いて分析し、日本における「非行からの立ち直り」の概念を定義した。

15 **主体感の喪失の程度と加害行為の遂行傾向 –現代版ミルグラム実験を用いて–**

○河合 亮哉（東海学院大学大学院）
中谷 智美（名古屋産業大学）
福井 義一（甲南大学）
大浦 真一（東海学院大学）

本研究では，現代版ミルグラム実験（Caspar et al., 2016）を実施することで，被強制下における主体感の喪失の程度と自由意志下での加害行為の遂行数との関連を検討した。

16 **CU 特性に関する探索的文献レビュー**

○田中 浩之（宮崎少年鑑別所）

CU 特性に関する我が国における先行研究を概観し、その定義、測定手法、反社会的な行動との関連について整理するとともに、効果的な介入・支援に向けた課題について考察した。

17 **自閉スペクトラム症のある非行少年におけるP－Fスタディの特徴に関する研究**

○加藤 美沙（さいたま少年鑑別所）
稲葉 凌太郎（宇都宮少年鑑別所）
南 卓志（松本少年刑務所）

昨今の研究で、P-F スタディが ASD の把握に有用との指摘があり、ASD 特性を有する非行少年にも同様のことが指摘できるのか、その場合にはどのような特徴があるかを明らかにする。

18 **性的加害経験に影響を及ぼす要因の検討ージェンダー視点からの再考ー**

○丸田 梨乃（名古屋大学）

Web 上で質問紙調査を行い，敵対的な男性性， 非人間的性交，男性役割ストレスの 3 つを説明変数，性的加害経験を従属変数としたロジスティク回帰分析を行った。

19 **拡張接触による加害者家族への偏見の軽減に関する研究**

○狩野 愛弓（駿河台大学大学院・心理）

加害者家族への偏見は深刻な社会問題であり、直接接触は偏見軽減に有効だが、拡張接触の効果は確認されなかった。

20 **Comprehensive Assessment of Psychopathic Personality – Self-Report（CAPP-SR）日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討**

○黒田 翔子（早稲田大学大学院人間科学研究科）
西中 宏吏（早稲田大学人間科学学術院）
嶋田 洋徳（早稲田大学人間科学学術院）

本研究では，Comprehensive Assessment of Psychopathic Personality – Self-Report（CAPP-SR）の日本語版を作成し，信頼性・妥当性を検討することを目的とした。

21 **The Reactive–Proactive Aggression Questionnaire（RPAQ）日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討**

○松本 優（早稲田大学大学院人間科学研究科）
西中 宏吏（早稲田大学人間科学学術院）
嶋田 洋徳（早稲田大学人間科学学術院）

本研究では，The Reactive–Proactive Aggression Questionnaire（RPAQ）の日本語版を作成し，信頼性・妥当性を検討することを目的とした。

22 **Dimensions of Anger Reactions-Revised (DAR-R) 日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討**

本研究は，簡便に怒りを評価できる Dimensions of Anger Reactions-Revised（DAR-R）日本語版を作成し，その信頼性及び妥当性を検証する。

○三浦 秀徳（福島少年鑑別所）
只野 智弘（法務省矯正局）
森 丈弓（甲南女子大学）
荒井 崇史（東北大学大学院）

23 **ヤングケアラーとしての側面を有する少年鑑別所在所者における、ケアの状況と知能・性格・態度の特性等との関連**

ヤングケアラーの側面を有する少年鑑別所在所者について、ケアの状況と知能、性格、態度の特性等との関連を明らかにするとともに、必要な支援を検討することを目的とした。

○今村 悟也（和歌山少年鑑別所）
東山 哲也（関東矯正管区）

24 **冷淡で無感情な特性及び DBD マーチに関する実証的研究**

矯正施設に収容された非行少年を対象に、質問紙法による調査を実施し、冷淡で無感情な特性及び DBD マーチについて、実証的に検討した結果を報告する。

○渕上 康幸（花園大学）
明星 佳世子（近畿矯正管区）
三浦 英之（東京拘置所）
今村 有子（東京少年鑑別所）
浦尾 洋旭（東京少年鑑別所）
岸本 武士（京都少年鑑別所）

25 **少年矯正施設在所者における市販薬・処方薬のオーバードーズの現状に係る予備的報告**

近年、青少年による市販薬・処方薬のオーバードーズが社会問題化している。本報告では、少年矯正施設在所者を対象とした予備的調査の結果を示し、オーバードーズの現状について考察する。

○河喜多 寛治（京都光華女子大学）
高橋 哲（お茶の水女子大学）
明星 佳世子（近畿矯正管区）
山田 正樹（交野女子学院）

26 **犯罪経験者の幼少期の外界認知と心理的特性との関連**

幼少期の負情動・身体感覚の否定経験認知をはじめとする外界認知と，感情制御，公正世界信念，怒り表出などの犯罪経験者の心理的特徴との関連について調査および分析を行った。

○北島 正人（秋田大学・教）

27 **テロリストに関する質的研究Ⅰ**

世間を震撼させるテロ事件を引き起こしたテロリストの中には、手記を記した者もいる。今回は日本語で書かれた手記の蒐集と分類等を通じて、質的研究の手がかりを得ることを試みる。

○宇都宮 敦浩（創価大学）
岡本 英生（奈良女子大学）

29 **能登半島地震と犯罪・非行１―警察データを用いた犯罪発生への影響についての検討―**

２０２４年１月に発生した能登半島地震が被災地の犯罪発生にどのような影響を与えたかを警察データを用いて検討する。

○岡本 英生（奈良女子大学）
荒井 崇史（東北大学）
佐藤 健司（仙台少年鑑別所）
杉木 淳一（新潟少年鑑別所）
稲井 健太（金沢少年鑑別所）
雨霧 旭穂（奈良女子大学）

30　**能登半島地震と犯罪・非行２　～集団避難中学生に対する心理支援を法務少年支援センター（少年鑑別所）が行う意義に関する考察～**

法務少年支援センターによる被災者支援が中長期の非行抑止に有効であるか検討する研究の初回であり、震災後、急性期に行った集団避難中学生等の支援の実践報告を行う。

○杉木 淳一（新潟少年鑑別所）
岡本 英生（奈良女子大学）
荒井 崇史（東北大学大学院）
佐藤 健司（仙台少年鑑別所）
稲井 健太（金沢少年鑑別所）

ポスター発表２　２日目　各種犯罪・犯罪者・捜査／防犯・被害・地域　等

8月３１日（日）　10：00～12：00　**１２号館１階　ホール**

責任在籍時間　演題番号　奇数　10:00～11:00

偶数　11:00～12:00

※要旨、所属等はエントリー記載のとおり。番号には、一部、調整用の欠番があります。

1　**盗撮行為に至る信念についての研究**

○堀切 大器（性障害専門医療センター（SOMEC））

性犯罪加害者の治療施設において、過去に盗撮行為を行った者に対し、盗撮に至った信念と治療後の変化を自由記述により回答を求め、質的分析を実施した。

2　**内受容感覚が性的逸脱行動の選択に及ぼす影響の検討**

○宇佐見 理紗（名古屋少年鑑別所）
西中 宏吏（早稲田大学人間科学学術院）
福留 尚典（早稲田大学大学院）
嶋田 洋徳（早稲田大学人間科学学術院）

性的な行動選択における意思決定のメカニズムに関する実証的研究は多く見受けられない。本研究では，性的な行動メカニズムについて内受容感覚を踏まえて実証的に検討した。

3　**コンビニ強盗犯の犯行地選択と店舗環境**

○花山 愛子（青森県警察本部刑事部科学捜査研究所）

グーグルストリートビューの画像から環境変数を生成し、コンビニ強盗犯の犯行場所店舗環境と犯人像との関連性、既遂店舗と未遂店舗の環境の違いを検討した。

4　**連続殺人の予測の検討**

○岸川 礼依（法政大学大学院人文科学研究科心理学専攻）

犯行現場や被害者の特徴から，事件の連続性の予測ができるかどうか検討する。

5　**連続犯罪者の犯行場所と中心性指標との関連に関する調査**

○小林 正和（宮城県警察科学捜査研究所）

連続犯が犯行場所として選択した場所と、犯罪発生の環境要因の指標として用いられる媒介中心性との関連について、調査を行い検討した。

6　**犯罪者プロファイリングにおける分析実施時の着眼点と分析担当者の特徴**

○大塚 祐輔（科学警察研究所）
横田 賀英子（科学警察研究所）
平間 一樹（科学警察研究所）
古橋 健悟（科学警察研究所）
渡邉 和美（科学警察研究所）

本発表では、犯罪者プロファイリング分析担当者への質問紙調査の結果を基に、犯罪者プロファイリング実施時の着眼点と分析担当者の特徴の関連等を検討し報告する。

7　**外見情報に基づくロマンス詐欺師の検出**

○久保田 晶乃（法政大学大学院）

本研究は，近年増加傾向にある，SNS 型ロマンス詐欺師の外見情報による詐欺被害の予測を行うことにより，人々がどのような詐欺師に騙されやすいのかを実証的に明らかにする。

8　**大麻に対する意識と関連する要因の検討**

○藤原 佑貴（科学警察研究所）
和智 妙子（駿河台大学）
久原 恵理子（科学警察研究所）
宮寺 貴之（科学警察研究所）

一般の青少年及び成人を対象として、薬物に対する意識等について尋ねるオンライン調査を実施した。大麻に対する意識について検討し，関連する要因を分析した結果を報告する。

9　**聴覚的背景情報が隠匿情報検査における記憶の再認に及ぼす影響**

○河 ゆき（大阪公立大・生科）

模擬窃盗犯行時に耳にした聴覚的情報が隠匿情報検査における記憶検出に与える文脈依存効果について，自律神経系の指標を測定し，ベイズ統計を用いて分析した。

10　**パラソーシャル関係がインターネット上の攻撃行動に及ぼす影響について**

○川端 壮康（尚絅学院大学）
三浦 秀徳（福島少年鑑別所）

本研究では，直接の交流がない相手に対し親近感や友情を感じるパラソーシャル・インタラクションが、被害者に対するネット上での誹謗中傷に及ぼす影響の検討する。

11　**犯罪報道コメントの変容分析について**

○芹田 卓身（大阪人間科学大学）

ネット上の犯罪報道に関するコメントが、裁判過程においてどのように変容するかを分析した。今回は、政治家に対する加害行為を対象として、分析を試みた。

12　**不適切な誘導が目撃者の犯人識別判断に及ぼす影響**

○山﨑 優子（駿河台大学心理学部）

目撃証言の信用性に影響する要因として、犯人識別手続きの適切性があげられる。本研究では、当該手続きでの不適切な誘導が目撃者の識別判断に及ぼす影響を明らかにする。

13　**ASD 傾向と取調べ迎合性の関連-特性不安および自尊感情による媒介効果の検討**

○丹藤 克也（愛知淑徳大学）

ASD 傾向と取調べ迎合性との関連を質問紙調査によって検討した。両者には有意な正の相関がみられ，この関係性を媒介する要因として，特性不安および自尊感情を検討したところ，前者のみが媒介することが示された。

14　**刑事施設における「交通安全指導」の効果検証**

○神山 和也（喜連川センター）
永井 智（立正大学）
石田 周良（播磨センター）

喜連川及び播磨社会復帰促進センターにおいて、交通事犯者を対象として実施した、自己の特徴や行動基準を整理し、今後の方策を考えるプログラムの効果を検証し、報告する。

15 **元非行少年が自助グループを自身の人生に組み込んでいく過程ー少年院出院者の語りー**

○西村 今日子（山口県中央児童相談所）

自助グループ参加による元非行少年の情緒的変化過程についてTEAを用いて検討し、元非行少年が自助グループを利用する意義や、参加に際して支援者に求められる視点について示唆を得た。

16 **犯罪等の被害者支援における援助が心的外傷後成長に与える影響**

○元田 絢弓（奈良女子大学大学院）
岡本 英生（奈良女子大学）

被害者支援における援助が心的外傷後成長に与える影響を意味づけの過程から検討し，心的回復のプロセスを検討する。

17 **施設内虐待に至る施設職員の内的プロセスの検討 ―家庭内での児童虐待の文献レビューを活用した仮説的探索―**

○佐々木 大樹（東海学園大学心理学部,愛知県海部児童・障害者相談センター）

施設内虐待に至る施設職員の内的プロセスについて、家庭内での児童虐待に関する理論的知見の分析を通じ、仮説的に探索した。その結果、養育者の認知と感情の二過程が虐待行為に関与することが仮定された。

18 **厳罰化の抑止効果は衝動性の個人差によって異なる**

○喜入 暁（周南公立大学）

本研究では厳罰化の抑止効果があるかどうかを，侮辱罪に注目して検証した。分析の結果，衝動性が高い人に対する抑止効果は必ずしも高くないことが示された。

19 **人流誘導と笑顔で万引きは減らせるか？（2）：ディスカウントストアでの実証実験の結果から**

○大久保 智生（香川大学）

ディスカウントストアにおいてホットスポットへの人流誘導と笑顔認証・寄付による万引き防止の実証実験を行った結果、人流の増加と店舗の雰囲気の向上が認められた。

20 **我が国の治安認識に関する検討－犯罪被害実態(暗数)調査の結果から－**

○金綱 祐香（法務総合研究所）
田中 梨子（法務総合研究所）

第6回犯罪被害実態(暗数)調査の結果から、我が国の治安に関する認識について属性等による違いを検討するほか、過去の調査結果を踏まえた治安認識の変化を追う。

21 **精神障害等を有する者に対する性犯罪被害について**

○田中 梨子（法務総合研究所）
金綱 祐香（法務総合研究所）

精神障害を有する者等への性犯罪被害について、犯行の態様や被害者の特徴、加害者の特徴等から被害の実態を調査し、被害が潜在化しやすい要因を分析した。

22 **社会的関係性と規範意識が社会的逸脱行動に及ぼす影響 ―大学生を対象とした調査研究―**

本研究では，社会的な関係性と規範意識が社会的逸脱行動に及ぼす影響について実証的に検討することを目的として，大学生を対象とした調査研究を行った。

○五十嵐 里奈（北里大学大学院医療系研究科）
野村 和孝（北里大学医療衛生学部）
勝間田 真愛（北里大学大学院医療系研究科）
村瀬 華子（北里大学医療衛生学部）

24 **再非行防止における支援情報の提示内容と関係者への役割取得が一般市民の支援意識に及ぼす影響**

少年の更生支援への賛同を求める際に、ポスターの提示内容と役割取得が賛同の程度に及ぼす影響についての調査を実施し、役割取得の背景要因を含めた検討を行う。

○勝間田 真愛（北里大学大学院医療系研究科）
野村 和孝（北里大学医療衛生学部）
三好 由夏（北里大学大学院医療系研究科）
村瀬 華子（北里大学医療衛生学部）

25 **被害者・遺族が経験する言葉による二次被害：網羅・分類の試み**

被害者・遺族が身内や司法関係者，第三者からかけられる的外れな，あるいは被害者らの置かれた状況への配慮を欠く言葉に着目し，これを罪種別に網羅・分類することを試みる。

○白岩 祐子（埼玉県立大）

26 **恋人からデート暴力（束縛）を受けた被害者が「自分が悪い」と感じる心理過程**

恋人から束縛された場合、被害者が自己を責める心理過程を検証した。その結果、恋人の心情を推測し、その原因を不適切な自己の行動に帰属させていることが明らかとなった。

○笹竹 英穂（至学館大学）

28 **メッセージ提示と個人特性が駐輪場における自転車の施錠行動に及ぼす影響**

感謝メッセージ、社会的規範メッセージ、後悔メッセージが駐輪場における自転車の施錠行動を促進するのか、また促進の度合いが個人特性により異なるのかを調査、検討した。

○大杉 朱美（福山大学）

29 **幼い子どもから情報を引き出すための質問の検討**

司法面接では、情報を引き出す上で自由再生質問が有効とされる。一般の幼稚園年少・年中相当を対象とした実験から、自由再生質問と焦点化質問を比較した結果を報告する。

○宮寺 貴之（科学警察研究所）
藤原 佑貴（科学警察研究所）
久原 恵理子（科学警察研究所）

30 **特殊詐欺被害に対する予測・対処可能性の認識やリスク知覚などが被害・被害者評価に与える影響**

大学生等を対象に、特殊詐欺事件の場面想定法を用いて、予測・対処可能性の認識やリスク知覚などが、心理的被害の大きさや被害者の責任の評価に与える影響を検討する。

○横山 稔里（駿河台大学大学院心理学研究科）
古曳 牧人（駿河台大学）
川邉 譲（駿河台大学）

31　**児童の自画撮り画像送信における性的グルーミングに関する研究**

邦訳した「性的グルーミング尺度－被害者版（SGS-V）」を用い、画像送信に至るまでの性的グルーミング手口のうち、どの要因が送信に強い影響を与えるかを検討する。

○櫻井 鼓（追手門学院大学、横浜思春期問題研究所）
藤田 悟郎（科学警察研究所）

34　**少年鑑別所入所者の性格特徴の変化について**

昨今の非行少年の性格特徴について、主に自我防衛の在り方を中心に過去の少年のデータと比較検討し、非行の機制の理解や処遇の手掛かりにつながる点について検討する。

○浦尾 洋旭（東京少年鑑別所）
今村 有子（東京少年鑑別所）

2026 年度
研究助成の募集

＜助成対象分野＞

少年非行防止対策、子ども・少年・女性・高齢者を対象とする犯罪等の防止対策、組織犯罪対策、サイバー犯罪対策、オンラインカジノ防止対策、薬物銃器犯罪対策、犯罪の国際化への対策、犯罪被害者支援対策、マイノリティ・マジョリティの安全安心な共生のための対策等、社会安全問題に関する社会科学の研究を主として助成の対象といたします。

助成種別	助成の対象	1件当たりの助成上限額
一般研究助成	個人、またはグループによる研究	300 万円
若手研究助成	40 歳以下の個人研究	100 万円

募集期間：2025 年 9 月 1 日（月）～同 11 月 30 日（日）

決定時期：2026 年 3 月上旬

助成期間：2026 年 4 月から 2027 年 9 月 30 日までの 1 年半

募集に関する詳細、助成件数、採択研究課題等過去の実績は、当財団ウェブサイトをご覧ください。

社安研　検索

公益財団法人 日工組社会安全研究財団（にっこうそ）

東京都千代田区内神田 1-7-8 大手町佐野ビル 6 階

TEL：03-3219-5177

日本犯罪心理学会賛助会員・寄付団体御芳名

※50 音順

公益財団法人 矯正協会

公益財団法人 日工組社会安全研究財団

日本犯罪心理学会第６３回大会賛助団体御芳名

※50 音順

アイブリッジ株式会社

株式会社 北大路書房

株式会社 金剛出版

株式会社 誠信書房

株式会社 星和書店

株式会社 創元社

サクセス・ベル株式会社

本大会を開催するにあたり、上記の機関・企業より多大なご支援をいただきました。

ここにその御芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2025 年 6 月

日本犯罪心理学会第 63 回大会準備委員会

委員長　須藤　明

日本犯罪心理学会第 63 回大会準備委員会

※50 音順

委員長	須藤　明（文教大学）	
委　員	今村　有子（東京少年鑑別所）	岡本　潤子（跡見学園女子大学）
	谷　真如（法務省保護局）	戸井　宏紀（東洋大学）
	西田　篤史（川越少年刑務所）	東山　哲也（関東矯正管区）
	藤川　浩（駿河台大学）	水野　康弘（文教大学）
	吉村　雅世（公益財団法人 矯正協会）	和智　妙子（駿河台大学）
事務局	田中　教仁（駒沢女子大学）	

日本犯罪心理学会第 63 回大会プログラム

主催：日本犯罪心理学会

発行日：2025 年 6 月

編集：日本犯罪心理学会第 63 回大会準備委員会